



No.106 2009.7.

発行 真言宗豊山派
北田山宝泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真琴

お薬師様の御真言 高らかに 「オンコロコロセンダリ……」

11 回目の大般若転読会が5月30日、厳修されました。年々わずかながらもより良いものへと、今回は太鼓の演奏、六大響(ろくだいきょう)に合わせて当山本尊「薬師如来」の御真言「オンコロコロセンダリマトウギソワカ」(意識)「**私たちの病気を取り除いて下さい**」とお寺様方と一緒に唱え致しました。初めてのことで戸惑いや面はゆい思いもあったかと思いますが今後も続けていきたいと考えています。

さてこの六大響ですが、事の初めは平成14年3月に行われた「千僧音曼荼羅」です。真言宗中興の祖「興教大師」の御遠忌記念に日本武道館での千人のお坊さんと太鼓、ジャズミュージックのいわばジャムセッションでした。太鼓演奏はその世界では第一人者の林英哲氏と青年僧による「六大響」、作曲は同氏によるものでその曲に薬師真言を唱える部分があり、ならば参加の方も一緒に唱えましょうということになりました。ちなみに氏は真言宗寺院に生まれ育ったかたです。

六大とは密教哲学ではあらゆる存在物を合成し、その本質を構成する要素をいうので、太鼓の鳴動がそれらに響き渡るといふ意味だと思います。寶泉寺では氏の指導を受けた若いお坊さんに毎年演奏をお願いしているものです。

大般若会について文章を寄せていただきました。

六百卷写経の翁 鈴木義雄

今年も宝泉寺大般若会が5月30日に挙行されました。最初にこの法会に参加したときは驚きました。読経といってもお経を一字一句詠むのではなく経典を片手で高くあげ、手品のようにパラパラともう一方の手に落としながら大音声で経を唱える方法で1巻終了となり、次にまた1巻、また1巻と進み十人のお坊さんあわせて600巻完了となります。勿論一字一句全部読むなんてとてもできる話ではありませんので先人の智慧かと一人納得したものでした。

宝泉寺では月2回の写経会(参加者約15名)を実施しており、この会に参加さ

せていただき色々ご住職のご指導を仰いでいます。真言宗のしきたりに沿って般若心経を約4、50分かけて写経します。写経終了後、ご住職を交えて1時間くらい法話を伺い、また歓談も自由にでき大変有意義な時間帯となります。この自由歓談時に、大般若法会について質問させていただいた時の事、この膨大な600巻全巻を書写した豪傑ご老人が茨城県におられたと言う話を伺い驚きと共にこの大仕事が如何に大変であったかを考えてみました。経典の厚み等を物理的に勝手に判断して1巻で般若心経266文字の30倍位(注)はあると思いました。ご老人のことですからそんな長い年月はかけられなかったと思ひ辛苦の程が容易に想像されます。

豪傑ご老人は何時どのように何年何ヶ月位かけて書き上げたものか思うまま考えてみました。豪傑ご老人の日常は、朝目が覚めたら写経を開始。起きている間は写経々々と言う生活であったと容易に想像できます。多分ご本人の信念は一般の考えを超越している事でしょうが、家族や周りの方々等のご協力も欠かせなかったと思ひます。写経満願の後お亡くなりになったと伺いましたが、満願まで生かされたのではないかとも思ひました。

個人的な事ですが、私は日程の関係上写経会には月1回しか参加できませんので、自宅で早朝1日1巻を必ず書き上げる事にしています。もしも私が大般若経を写経するとしたらどうなるかを想像してみました。1巻を般若心経30巻分と仮定して600巻となると般若心経の18000巻となりは私のペースでは約50年、寝る間も惜しみ生活を写経のみに当てるとしても1日30巻、即ち大般若経1巻書くとして600日即ち1年と8ヶ月になります。

子供の頃孫悟空を読んでいたこともあり、昨年平岩弓枝著の西遊記を読みました。玄奘三蔵が長安の都から天竺まで忠実な弟子に守られながら困難を乗り越え経典を戴きに行くご存じの話です。私が大変に関心を持った事は、経典を一度読んだら覚えてしまうと言うくだりと数字の因縁です。天竺で受け取った5048巻をはじめとして、道のりの困難に遭遇してもこの記憶力が何度も困難を救ってくれました。また5048と言う数字も色々なところで関係してきます。

小説ですから勿論誇張もありますが原典は史実話を基に書かれたものと承知しています。大般若経はこの玄奘三蔵の持ち帰った中では最大の経典なのです。豪傑ご老人は大般若経写経を決断の底には強い信仰心があった事は間違いのないと思ひますが、信仰心とは自身の内なるものであるのですが、また形で現しそれを残す事もできるものでもあることを感じ入りました。それとこのご老人と玄奘三蔵の信仰心や決意がどこかで共通しているのではと感じられました。

注 大般若経典は各巻の平均が約8000文字といわれているそうです。

鈴木さんの想像はおおかた当たっていました

旧本堂について

昨年12月、るり光104号で「旧本堂、生かす道」で思いの一端を申し上げましたが、以来、総代会では回を重ねて検討、世話人会においても賛同の意をいただき、具体化の緒に就いたところです。旧本堂がこれからも十分生かされていくよう計画していきますが、その骨子をお伝え致します。

旧本堂は	新四国奥多摩88カ所	水屋の設置
	の大師堂とする	車イス対応
	納骨室の設置	六地藏の補修とお堂の新築
	墓参の際の休憩所	来年夏を完成の目途とする
	お手洗い	

進捗状況はるり光で逐次お伝え致します。

花まつりを終えて

3月のるり光でお知らせした通り、おしゃか様の誕生祝いである花まつりを宝泉寺では数十年ぶりに行いました。期間は4月5日～8日の4日間で、お祝いにおいでになった方は約45人。決して多いとはいえない数字でしたが、来訪された皆さん全員が普段あがることのない本堂でゆ～っくりとアマチャを味わい（昔から花まつりはアマチャでおもてなしをします）、お土産のアマチャクッキーを笑顔で持ち帰ってくれました（アマチャの葉を練り込んだものをNPO法人「しのひ」が焼いてくれたのですが、これが予想以上にうまかった！）

今回、改めて思ったことが、何か新しいことを始めれば、お檀家さん以外でもずいぶん多くの方が宝泉寺を訪れてくれるんだということです。近所の小学生に宣伝のピラを適当に配ってまわってもらったところ、そのピラを見て初めてお参りに来られた方がいれば、宝泉寺を毎日の散歩コースに入れている方がラッキーとばかりにお立ち寄りになったり、志木市から花まつりをやっているお寺を探しながらドライブをしていた初老のご夫婦が、偶然この宝泉寺に訪れたなんて例もあって。来年はもう少し盛大にお祝いしてみたいと考えております。

お寺がやれること、まだまだたくさんありそうです。（了）

魂の讃歌 ～ 声明と太鼓と心経と～

一昨年春、新潟で声明（しょうみょう：節をつけたお経）のコンサートを行ったという記事をこの誌上で掲載いたしました。あの新潟公演では遠方であったことと、既にチケットの割り振りが決まっていたことで宝泉寺の檀家である皆さんを案内できずに悔しい思いをしておりましたが、今度は大丈夫です。ここ所沢で声明と和太

鼓のコンサートを開催することが決定いたしました！

話をもちかけてきてくれたのは「読売市民新聞」の編集長さん。大般若転読会に声明と和太鼓を織り交ぜたものというご依頼に真言宗豊山派の僧侶 26 名が賛同し、さらに和太鼓奏者として日本の第一人者である林英哲氏が一番弟子と認める、上田秀一郎氏とのコラボレーションも実現しました！

8 月の前半からチケットの販売が宝泉寺（他、数ヶ寺）にて始まる予定ですが、数に限りがございますので、興味のある方はお早めに宝泉寺までお問い合わせください！

日時：9月16日（水）18時30分開場 19時開演 公演時間約90分

会場：所沢市民文化センターミュージズ 中ホール（マーキーホール）

西武新宿線 航空公園駅より徒歩5分

入場料：500円（全席自由）

お問い合わせ：宝泉寺 04-2943-2467

また、コンサートに伴い、宝泉寺にて声明の練習会を8月21日、9月14日の午後、寶泉寺から行う予定です。興味のある方の見学も大歓迎です。（了）

墓地内ゴミ処理についてお願い

例年のように特別コーナーを外トイレ付近に設けます。ゴミは山林に持ち込まずに必ずこちらかゴミかごへお持ち下さい。そばに軽トラックがある場合は荷台へ直接の積み込みも結構です。そして16日、送り盆の際の竹などを含む盆棚お供物類は可燃、危険物などを分別して特別コーナーへお持ち下さい。

盆供、お塔婆の受付

期間 7月31日(金)より8月9日(日)まで

極力この期間内にお願ひ致します。檀徒としてまだご家庭に仏さまのない方にもお納め頂いております。お持ち頂くのは年に一度ぐらひはお互いに顔を合わせたいとの思いからです。

編集後記

- ・今年は思いがけなく早い梅雨明け、春先から花々の咲様を見ていると季節の移り変わりが早いようだ。8月末には総選挙、世も早くいい方に変わって欲しいものだ。秋はどうだろうか。
- ・エコポイント制実施を待ち、我が家では故障中の冷蔵庫が新しくなりあれこれと新型冷蔵庫に感心しきり。食料も無駄にしないようにしなくちゃ。新聞記事によると日

本の食品の廃棄額は11兆円、米国でも5兆円だそうだ、根はとても深い。

- ・日食、今朝は雨、今は曇り空まもなく始まる。さて天の恵みは、何時の頃か忘れてしまったが欠けるにつれて辺りが暗くなり何となく不気味だったことを記憶している。あの頃はろうそくのススと下敷きで見入ったものだが今は駄目とのこと。安全な専用グラスは所沢のメーカー製だそうだ。（琴） Jul.22.2009